



NPO 法人みしまびと 理事長

山本 希 氏



プロフィール

三島生まれ、三島育ち。平成25年三島市役所入庁。当時勤務していた楽寿園にて、映画撮影中のみしまびとプロジェクトと出会い、地域活動にのめりこむ。平成30年7月より、NPO 法人みしまびと3代目の理事長を拝命し、現在は仕事とNPOでの地域づくりという二足の草鞋を履き活動を続けている。

はじめの一步を踏み出す場所でありたい

今年1月にオープンしたみしま未来研究所は、旧三島市立中央幼稚園をリノベーションし、三島のまちづくりや人材育成、地域ブランド力の向上を目的に活動しているNPO 法人みしまびとが運営しています。三島市役所職員であり、理事長を務める山本希さんにお話を伺いました。

「みしま未来研究所について教えてください。」
NPO 法人みしまびとは、「地域の未来をつくる人をつくる」をコンセプトに、10年20年後の長期的未来で地域を引っ張っていくリーダーの育成と同時に、現状の地域のベースアップを目指しています。みしま未来研究所は2014年から始まった映画製作に続く事業です。

「ここに来てもらうことが地域と関わる初めの一步として、イベントへの出店を行ったり、今まで自分がやっていたことを少し外に発信する。そうした地域のベースアップを目指しています。」
「ここではどんなことができるのでしょうか？」
未来研究所は様々な目的で利用ができる機能を備えています。

「コワーキングスペース」は、地域で仕事をされている方やこれから何か事業を起したい方たちの仕事場所として使ってもらっています。

「多目的スペース」は時間貸しのキッチン付きのレンタルスペースです。会議や懇親会の場として使ってもらったり、私たちの企画する「スイッチ」というトークイベントの開催拠点にもなっています。その他にも、子供を遊ばせたりヨガをしたりと、他にはない雰囲気をつくってほしいなと思います。

他にも、展示など少し長期間の利用や少人数の利用に最適な「多目的スペースミニ」や、高校生の活動のための「高校生の部屋」、建物の前の「みんなの広場」、みしまびとがボランティアで運営する「カフェバー Blooming」があります。

Bloomingでは常時70種類のクラフトビールを用意し、店長も日替わりなので音楽など毎日雰囲気も変わるお店です。自分のお店の新メニューを試したり、これからお店をやりたい人に一日店長として自分の料理を売ってもらったり、やってみたいことを実現出来るような仕組みをつくってほしいなと思います。

出会いを大切にしている場所

「このようなきっかけでこの場所ができたのでしょうか？」

映画作りを通して、職場でも家庭でも友達でもない仲間が集まり、それぞれに色々な仕事や生き方をしている人たちと二つの物をつくるという経験をしました。そういう場所が常にある地域がすごく面白くなるし、映画やイベントだと単発で終わってしまうので、拠点を作ろうという話になりました。ここは、そんな出会いを大切にしたいという気持ちがある場所なんです。

ここから地域へ広がる

「この場所をどんな場所にしていきたいですか？」

コワーキングスペースで始めたことが、事業として地域に出て行ったり、お店を出したりという形で、始めの一步をここで踏み出す人が増えるといいなと思います。それぞれがやってみたいことや課題に思っていることを、ここに集まる人たちみんなと語り合い、応援する場として機能させ、「みらけんに行くとか何か起こる」「解決出来るんじゃないか」と思われるような場所になるのいいなと思います。

高校生や大学生の居場所の選択肢としてこういう場所がある街はすごく可能性があると思うし、若い人に「ここで自分も何か出来るぞう」と感じてもらえるのが理想ですね。

「長期的な視点での「地域の未来を育てる人」を育てる」事業はどのようなものですか？」

自分もそうでしたが、高校生は地域のことを知らないですし、就職を考えた時地域の仕事を選択肢に上がらず、地元に戻ってこないという課題があります。この先20年を考えた時、その人たちが育てていくことは重要です。

そのためにまずインターンシップ事業を始めたいです。地元の会社30社くらいにご協力頂き、高校生が実際に話を聞く活動を開始させました。高校生がコワーキングスペースで働いている人や、ここに集まって来る人たちと何かしら自然に接点を持つ場になるといいなと思っています。今も高校生が「ここ使ってみようかな」と来てくれます。「高校生の部屋」も、安心して立ち寄り相談してもらえる場所でありたいと思っています。



イベントの様子

「人を育てる」視点での思い切った事業を

市の職員としても、今、人を育てる視点が行政施策に必要だと感じています。三島市の事業も、その視点をプラスすることで発展していけると思いますが、もう少し二歩踏み込んで動き出したいなと思います。今はまだ課題になりきってないからこその方法もありますし、何をやるかはもちろんですが、誰とやるかという視点を大切にしたいなと思います。

今年度、市で市役所職員と民間企業から若手社員20名ほどが集い、社会課題解決にむけた事業を実施するという「みしま官民連携まちづくり研究室（通称…みしまラボ）」が立ち上がり、未来研究所を会場に「スーブラボ」という企画を行いました。起業相談でも行政相談でも法律相談でもなく、何か三島でやりたいんだけど、という街のよろず相談窓口を作ろうというもので、「スーブラボ」を作りながら交流し、スーブラボを飲みながらその人の話を煮詰めてみましょう、というコンセプトです。そのように、一つ一つは小さなことでも、結果的に未来研究所に行けば何とかなるって思ってもらえればすごくいいなと思います。

自分が動くことで街が変わるかもしれない楽しさ

どんな事業でも、感動する体験をどう

プロデュースできるかだと思っています。

高校生がふらっと来たなら、とにかくその子を大切に、自分が今知っている周りの人をどう引き合わせるか。そういう地道な一歩ずつ繋いでいくことを大切にしたいです。

「生まれも育ちも三島の山本さんは、今の三島をどう感じていますか？」

高校や大学生の頃、三島は何も無いなという気持ちがありました。今はたくさんの人と知り合い、行きたくなくなるお店も増え、イベントも多いと感じています。土日暇になることがありません。今の方がコンテンツ豊かで面白いなと思います。

みんなちょっとおしゃれを望んでいて、今日ここに行きたいと思えるお店がたくさんあり明るい雰囲気の人が多いですね。夜もいいですし、昼間は家族で楽しめます。コッペパンを買って、前田精肉店でメンチカツとコロッケを買って挟んでここで食べたい。そんな生活が面白いんです。



みしま未来研究所
静岡県三島市大社町 18-52
<https://mishima-mirai.com>